

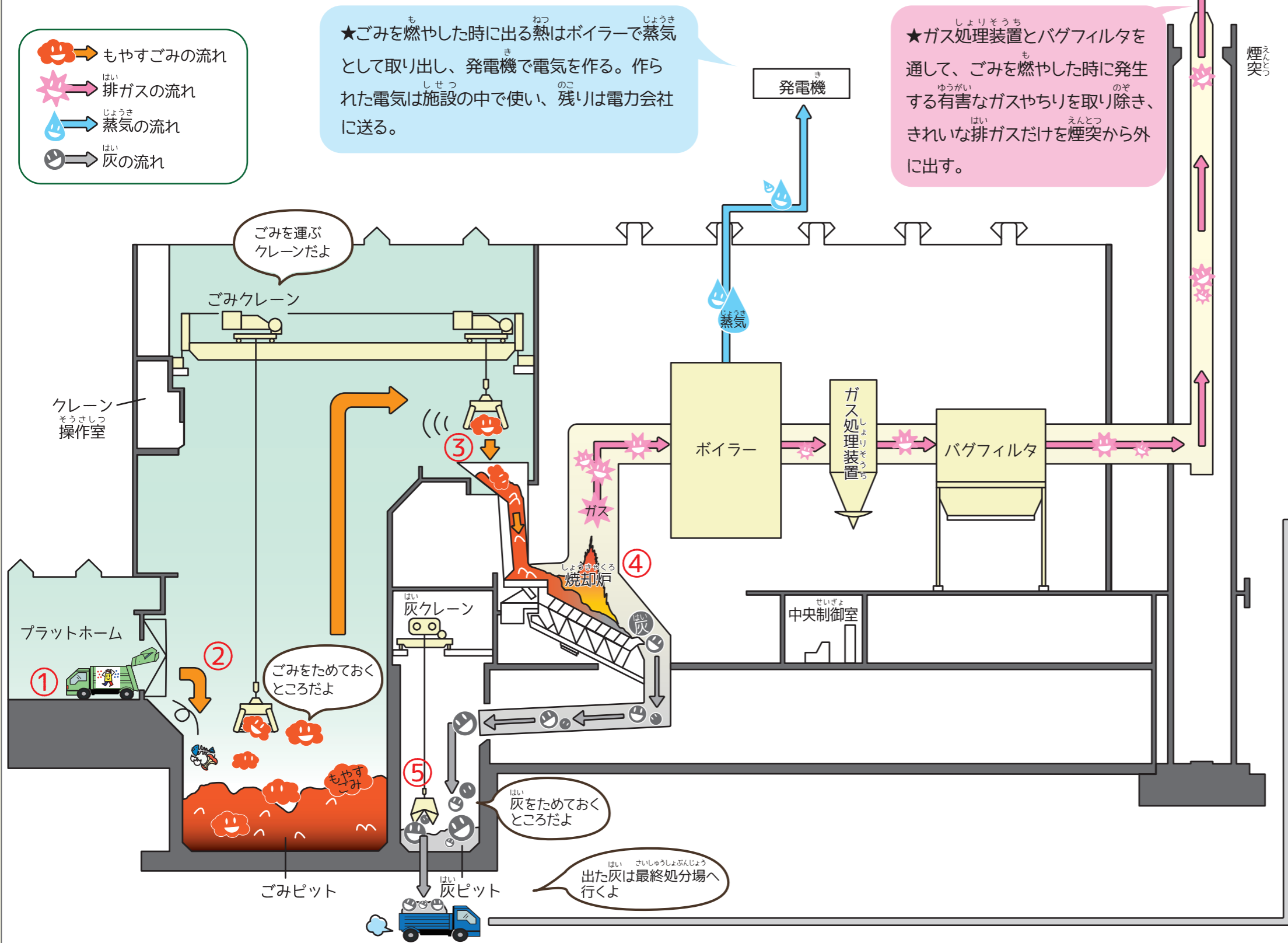
(生ごみ、皮革・ゴム類、再資源化できない紙類・布類など)

焼却施設 (西部総合処理センター)

- もやすごみの流れ
- 排ガスの流れ
- 蒸気の流れ
- 灰の流れ

★ごみを燃やした時に熱はボイラーで蒸気として取り出し、発電機で電気を作る。作られた電気は施設の中で使い、残りは電力会社に送る。

★ガス処理装置とバグフィルタを通して、ごみを燃やした時に発生する有害なガスやちりを取り除き、きれいな排ガスだけを煙突から外に出す。



①パッカー車がごみを搬入する

②ごみをごみピットに投入する

③たまったごみをクレーンで焼却炉に入れる

④ごみを燃やす(中央制御室で管理)

⑤ごみを燃やした灰を灰ピットにため、クレーンでトラックに積み込む

●将来、ごみが捨てられなくなる?



ごみを燃やして残った灰は、最終処分場(大阪湾フェニックスセンター)に運ばれます。西宮市のごみは、大阪湾内の神戸沖埋立処分場へ運ばれ、埋め立て処分されています。



西宮市 西部総合処理センター



西宮市 東部総合処理センター



上の写真は、神戸沖埋立処分場ができてから現在に至るまでの様子です。ごみを捨てる場所が減り、現在の状態では、今のままのごみの量を出し続けると、2030年ごろにはいっぱいになってしまうと予測されています。ごみを減らして、この処分場をできるだけ長く使えるようにしてはなりません。

